

Title	長期存続する中小企業の要件-成長を続ける中小企業における成功要因-
Sub Title	
Author	倉島, 圭三(Kurashima, Keizou) 山根, 節
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2007
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2007年度経営学 第2219号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002007-2219

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	山根節研究会	学籍番号	80630330	氏名	倉島圭三
(論文題名)	長期存続する中小企業の要件 ～成長を続ける中小企業における成功要因～				
(内容の要旨)	<p>2002年を底とする景気回復は緩やかながらも継続し、戦後最長記録を更新し続けているところである。しかしながら中小企業の景況感は改善しているものの大企業と比較して大きく乖離しており、その差は拡大傾向にある。中小企業白書ではその背景として、牽引役である輸出や民間設備投資に関連する中小企業が少ないこととコスト上昇環境下で価格転嫁できない中小企業の弱さを説明している。</p> <p>筆者は長年自動車販売会社を経営してきており、自身中小企業経営の困難さを体験し、また多様な中小企業経営者と知遇を得る中で様々な経営を見聞きしてきた。当大学院で学ぶことになり経営の現場から離れてみて、営々と事業を存続、持続的成長を続ける経営者の姿には本当に頭の下がる思いをしている。一方では経済界から退出を余儀なくされる中小企業も少なからず見ており、両者の差を代表者の経営に対するスタンス、経営手法に求め、そして中小企業経営者のナビゲーションができないかこの研究に着手した。</p> <p>パイロット調査として有力中小企業代表者に直接インタビューを行い、成長を続けている中小企業経営の成功要因を探った。経営理念を設定し、経営戦略を構築し、組織マネジメントを的確に実践していることが確認され、結果として企業のもつ経営資源を成長させ、それをベースにさらに飛躍した経営戦略の構築を可能にし、拡大再生産のスパイラルを描いていることが分かった。</p> <p>さらに主要な因子を抽出し、長期持続的に成長している中小企業の代表者は、急激な規模の拡大を迫わないこと、技術コンシャスであること、組織マネジメントを的確に実践していることと仮説を設定した。</p> <p>仮説を検証するために中小企業代表者に対しアンケートを送付した。回答を分析した結果急激な成長は求めないものの、必要な投資は積極的に断行していることが分かり、技術コンシャスであることと組織マネジメントの実践は高業績をあげている代表者に共通する要素であることが確認できた。</p> <p>今回の研究を通じて中小企業代表者にとって大きく関心と呼ぶ事実を抽出できたのではないかと考えている。</p>				